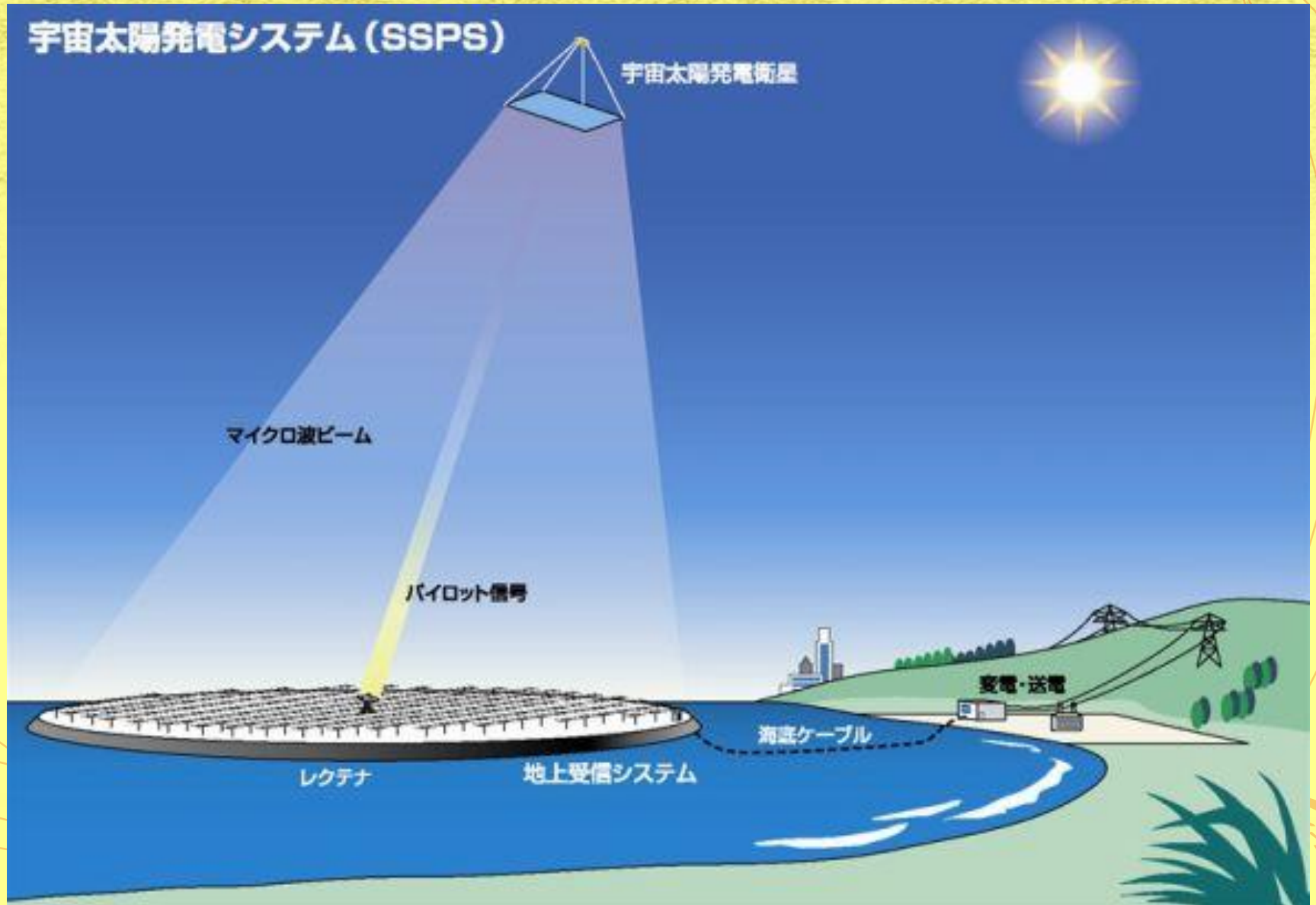


未来のエネルギー開発



環境学習・オゾン層破壊のメカニズム

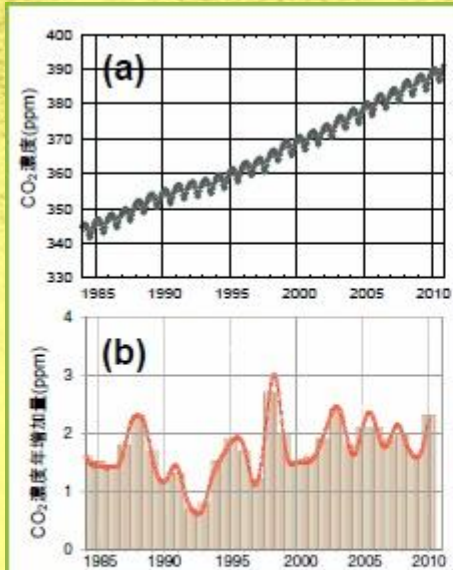


図3 二酸化炭素の1984年から2010年までの(a)世界平均濃度と(b)その一年あたりの増加量。(b)の棒グラフは前年からの濃度差。

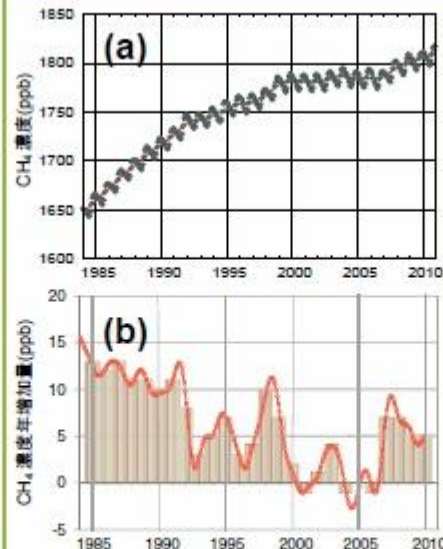


図4 メタンの1984年から2010年までの(a)世界平均濃度と(b)その一年あたりの増加量。(b)の棒グラフは前年からの濃度差。

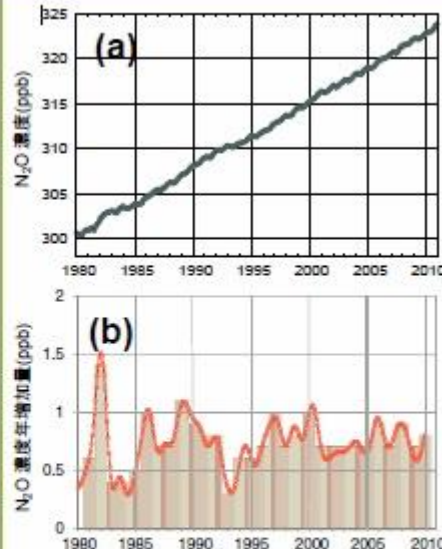


図5 一酸化二窒素の1980年から2010

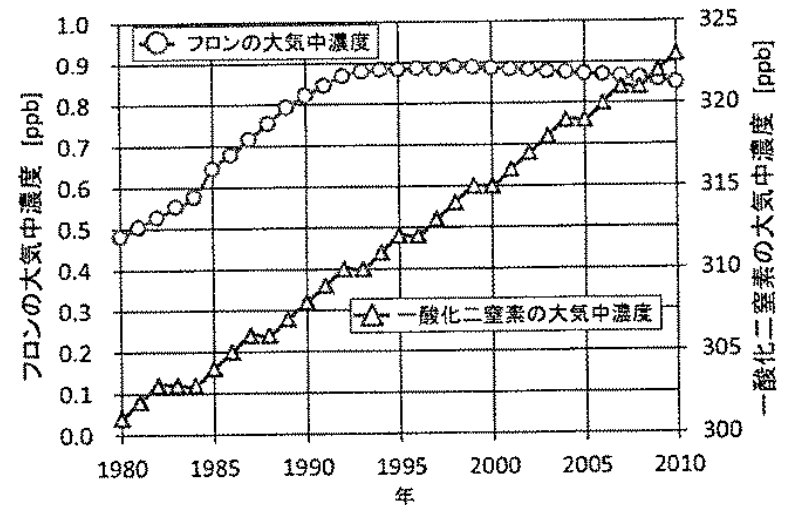


図2. フロン及び一酸化二窒素の

大気中濃度における経年変化

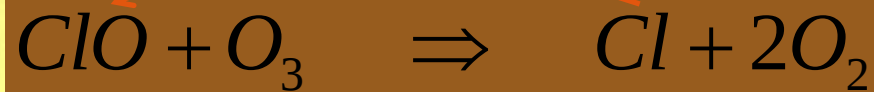
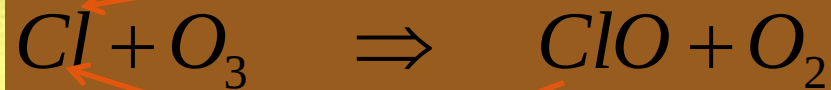
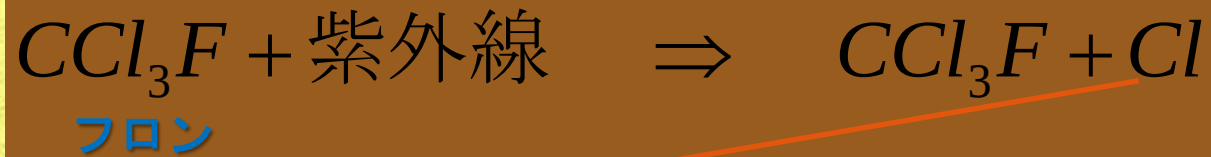
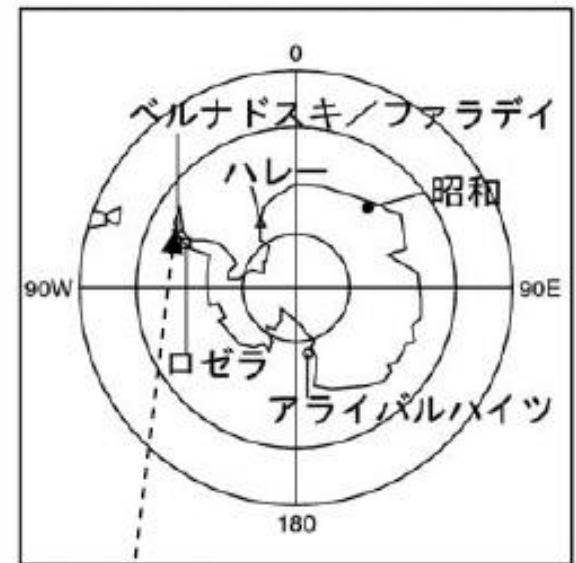
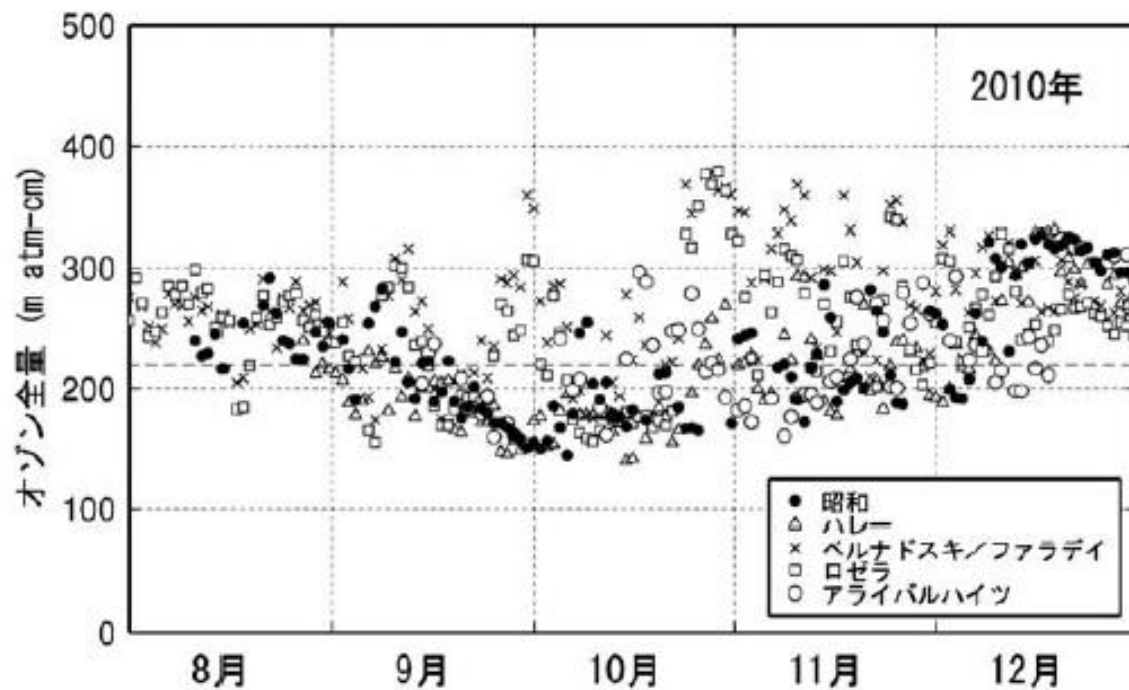


図1 北極地方で撮影された極成層圏雲 (PSC)
(フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より引用)

<参考>

<http://www.nies.go.jp/kanko/kankyogi/10/07.html>

南極圏上空における 成層圏オゾン層減少メカニズム



南極半島

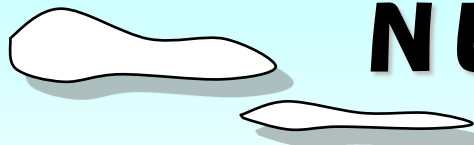
図 1-資-5 南極域各国基地におけるオゾン全量の変化 (2010 年)

(出典) 気象庁 オゾン層観測報告:2010

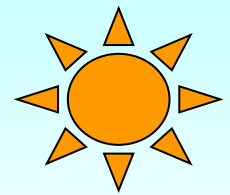
国際理解学習・ミクロネシアの現状



キリバスは世界で最初に日が昇る国だが、温暖化の進展によっては世界で最初に水没する国になるかもしれない。その原因は、キリバスの人々が行った何かが原因ではなく、遠くの先進国や巨大な発展途上国の人々の活動が原因なのだ。



NUフロートアイランド



食料生産システム

淡水化システム

自然エネルギーシステム

水素製造設備

水素貯蔵設備

耐塩性植物

淡水化設備

太陽光発電

波力発電

海洋牧農園

高栄養深海水

深海水伝導管
(ライザー管)

浮島構造材料

海洋・海中プランテーション材料

エネルギー転換材料

エネルギー貯蔵材料

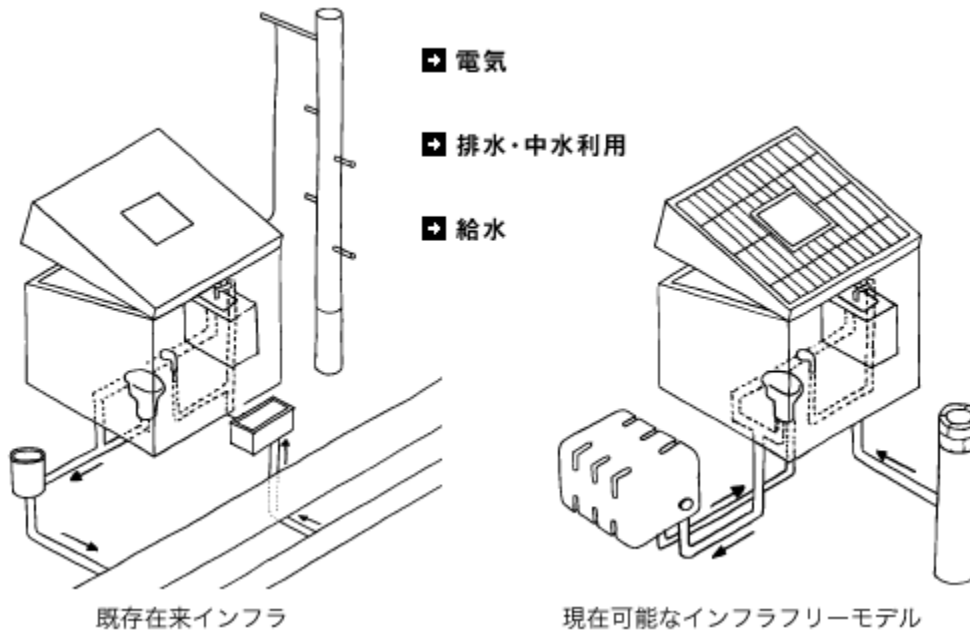
材料開発

NUフロートの概念図（キリバス周辺海域対応）

防災学習・スペースデブリ問題



防災+環境学習・インフラフリーハウス



2050年の未来都市 モザイクシティ





国際救助隊による災害復興・教育支援 のための学生「絆」プロジェクト



国際救助隊

日本大学

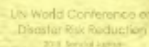
CONTRIBUTION TO THE WORLD
NIHON UNIVERSITY

nurescue.com

■国際救助隊エンブレムデザイン



理工学部
芸術学部
生物資源科学部
医学部
歯学部
生産工学部
工学部
短期大学部
日大習志野高等学校



開催：平成27年3月14日(土)・18日(火) 主 題：国際舞台 会 場：仙台国際センター(会費制・要申込)
 国連の加盟国総数は、世界各国の代表が国際的な外交関係を結ぶ国際多極の会盟です。
 世界の外交関係を結ぶ主要の場には、国連に加えて世界貿易機関(WTO)などがあります。

各国官制・郵便を含む改正世界図、国別機関、現在NOOなど5,000人以上が自由に集まります。
第3回 国連世界食料会議、仙台国際食料政策委員会のウェブページ URL: <http://www.bccae.org>

「パブリック・フォーム」は、国や地方自治体など行政機関の施策に賛同し、国やコミュニティづくりに参加するため、広く市民や関係者の関心を喚起する上を目的に策定するものである。

要するに、本部署の国や地方自治体、日本企業・学識者等が策定するあらゆる「策定会議」を必ずしも「パブリック・フォーム」に分類するのではなく、国や地方自治体・民間企業に開かれた「策定」に開かれたものもあると考えるとする。

日本をはじめとする世界の国々では、国や地方自治体はもとより、民間の行政文化の発展に資するものをこの項目とする。

「パブリック・フォーム」は、政治制度、地方自治体、NPO、NGO、大学、地域文化機関、民間企業、市民社会などによって策定され、策定に関する取り組みを一般に公開してよく特筆するものである。

国や地方自治体、民間企業、市民社会の公的・私的の両方の活動の中心に、セクター・横断的にわたる。

—大学の「知」で社会に貢献できること—

日 時：平成27年 3月18日(水) 9:00～16:00

場 所・TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール2 仙台市青葉区国計町3-6-1

問合せ先：日本大学芸術学部 研究事務課 03-5995-8208

Forum 0	9:30~10:00	「国庫救助船の活躍——大分県への出向に貢献できること——」 木村 成司 災害学・防災 (研究代表者)
Forum 1	10:05~10:55	「宇宙技術開発から6.能率たれた災害時緊急通信基地局と無人観測システム」 青木 徹司 理工学部・教授・〒91
Forum 2	11:00~10:50	「復興のさきの発展を目指した防災まちづくりと水上広域ネットワーク構築」 伊藤 祥 理工学部・教授・〒91
Forum 3	13:00~13:50	「防災と災害用施設ポールのデザインのデザイン」 内田 憲之 生産工学部・准教授・〒91
Forum 4	13:55~14:45	「キューバ防災研究と貧困地域」 山下 智平 生物資源科学部・助教・〒91
Forum 5	14:50~15:40	「動物園と防災」 村田 浩一 生物資源科学部・教授

バネルマン 「聖徳太子の活動は、**「東洋シムルター - 西遊シムルター」**とあり、「**天竺の音楽源流のあり方**



N Rescue is the Third UN World Conference on Disaster Risk



As university researcher and researcher in education, however, I believe they will all be studying history, with history, and to educate our younger generations that would be our priority in the global community. We allow the human resources that must contribute to today on the world stage as the members of "St. Pauline". Therefore, being a research center that provides creative solutions to a range of challenges, how implement our 503rd programme by developing a "Smart Mobility Solution" which is capable of covering all programme and educational and research activities, which are contribute to teaching, research, education and research support. We introduce the content of the focus here, by going to a region to be involved in local events and events, combining several workshops and educational support, to work on the issues of the region with the students, the "mobility" necessary for problem-solving in a context. We discuss and investigate the possibility that I can contribute to develop a research with a report.



国際救助隊がつなげる未来

日 時：平成27年 3月13日 金 13:30～17:30

場 所：日本大学会館 9 階 907 会議室 AB 東京都千代田区九段北 4-24

[illegible]

日本大学経済学部

10年先を創造できる力



Know How : 解き方、取組み方を学
ぶから

Know What : 10年先の自分にとっ
て何が必要なのか、大事なのか

Know Why : それは何故なのか

を自分の中で理解することが重要です